

は国宝18棟と重要文化財12棟で、修復費用は7億9000万円に上った。厳島神社回廊の冠水の回数は近年急激に増えていて、今後も油断できない状態といえよう。

農林水産業への被害も大きく、中国地方5県を合わせた被害は170億円を超えた。カキ養殖用いかだの流出、ナシやミカンの落果、水稲や野菜への被害などによるものだ。

ラ並木をはじめ街路樹が倒れた。札幌市緑の保全課によると、10日までに市内の街路樹3000本以上が倒れているのが確認されている。また、後志支庁管内の神恵内村では、

台風による高波で国道229号の大森大橋の3分の1、全長429mのうち158mが落下し、3つに折れた。台風18号による道内の死者は8人、負傷者は400人以上に及んだ。



▲高波で橋げたの一部が落下した国道229号の大森大橋（北海道神恵内村）〔写真提供／北海道開発局〕

暴風域を拡大して再上陸 北海道を襲った暴風被害

さらに台風18号は従来の常識を破り、勢力を保ったまま北海道へ向かった。暴風域が道全域を覆うほどの規模に拡大して9月8日、再上陸した。最大瞬間風速は札幌市で50.2m、室蘭市で45.7mを記録した。札幌市では、北海道大学の観光名所でもあるポプ

【インタビュー】

INTERVIEW



厳島神社 禰宜
飯田楯明氏

防災よりも復旧・修復に主眼を置く

～自然災害を受け入れるしかない世界遺産の宿命～

台風18号によって戦後最大級の被害を被った厳島神社。

これまでの被災経験で学んだ教訓・知識は生かせるのだが、特別な防災手段をとることはできない。文化財であり、現状を変えるようなことはできないからだ。

800年の歴史をくぐり抜けてきた神社は、生き物が傷を癒やすように、破損を修復し、歴史を重ねている。

●歴史上、何度も被災した経験を持つ厳島神社ですが、特別な防災方法はあるのですか。

自然に人間の力は及ばないもので、台風が来たら防ぎようがないというのが正直なところ。台風がいつ来るか、どんなコースをたどるかで被害は全く異なりますから、防災訓練などもしていません。ただ、これまでの経験から蓄積された手段はとっています。例えば、平成3年の時は能舞台が下から吹き上げる風で持ち上がって落下して破損したので、今回は鏡板を外し、風が抜けるようにしました。そのほか、建物に支柱用の棒を入れたり、土のうを積んだりなどはしています。台風18号のときは、襲来の2時間ほど前から職員30人から40人で対応しました。

●今回の台風被害の特徴は何ですか。

当日は満潮でも潮位が2.76mと低かったの

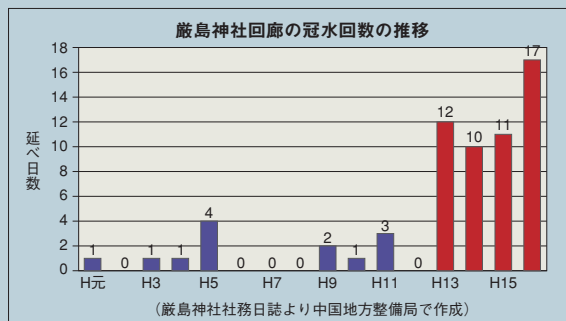
ですが、実際には潮位が1.70mも膨らみ、廻廊の床上50cmにも達して、そこに強風と高潮が襲ってきました。今まであまり例がないことですね。床板（平舞台）は動いて破損しました。ただ、この部分には消波的な効果もあるようです。左楽房は破損してばらばらになり、右楽房は人力で綱で引いて流されるのを止めました。全37棟のうち破損は30棟にも及びます。

●防災面で難しいのは、どのような点ですか。

文化財なので、平安時代からの状態を維持し、景観にも配慮して守らなければならないことです。厳島神社は潮位が最も高い4mくらいの時、床板が海面よりぎりぎり上になるように設計されています。例えば、これをもっと上げれば被害は減るかも

しませんが、文化財にそうした工事を施すことはできません。景観を損ねてもいけませんから、防風のための障壁などを建設することもできません。ですから、防ぐというより、破損した後、どう修復するかをより強く意識しているといえるでしょう。

今度の被災で流出した部材の90%以上が回収され、屋根を葺くための桧皮なども確保しました。修復は、京都にある社寺建築の専門企業に依頼しています。



▲厳島神社回廊の冠水回数は近年増加している〔資料提供／中国地方整備局〕